

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	行事企画の中に地域の方と関われる行事の内容を毎年、組み込んでおり各行事担当者は地域の方々にも楽しんで頂けるように内容を企画し交流を図っています。	事業所内に掲示されている理念は、地域との関わりを組み込んだ「ひまわり理念」として掲げており、家庭的な対応と利用者一人ひとりの個性を活かしたサービスへの実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事(収穫祭、新年会)に地域の方や交流をしている保育園の方に案内をし参加して頂いている。職員や利用者も地域行事(地区のバーベキュー)に参加させて頂き、交流させて頂いています。	施設の行事や地域への行事にも積極的な参加が図られ、新たに保育園児との交流も行なっている。近隣の方とは畑作りのアドバイスや季節野菜の差し入れなど日常的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、法人内で認知症に対する事例発表等を通じて地域の方々へ発信しています。また、運営推進会議にて地域の方や家族様等認知症の理解を深める為に認知症とはどうゆう病気なのかなどお話しさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。ご家族様、地域の方、民生委員の方、行政の方、入居者の方に参加して頂き施設の取り組みや行事内容、入居者の状況、防災についてなどお話しさせて頂きご意見頂いています。	運営推進会議では施設の取り組みや状況報告等、活発に意見交換が行なわれている。防災についての協力として、消防団退職者への呼びかけにて協力をいただくなど、有意義な会議が定着開催されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて行政の方に来て頂き現在の状況をお話したり、行なっているサービス状況を伝えている。また、サービス状況から困難な状況になった時は連絡を取り相談させて頂きながら連携が取れるよう取り組んでいます。	運営推進会議以外でも、必要において相談、連絡、助言をいただいている。嚥下機能困難の方には、ムース食の配食やリハビリ等、市町村とは積極的な連携が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の高齢者虐待・身体拘束廃止委員会活動を中心とし勉強会や委員からの談話講習などから職員への理解を深めています。	玄関にセンサー設置と法人全体の研修会、委員会中心の勉強会を実施するなど、職員全員で拘束禁止の意思統一を図り、利用者にはさりげなく付き添い、自由な生活が支援されている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の高齢者虐待・身体拘束廃止委員会活動を中心とし勉強会や委員からの談話講習などから職員への理解を深めています。	委員会が中心となり、虐待防止の勉強会を実施し理解されている。朝礼で「虐待防止3か条」を復唱周知され、代表者は職員のストレスが蓄積されないよういつでも相談に応じ働きやすい職場作りに心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修に参加する事で制度について学ぶ機会がありますが、権利擁護や成年後見制度など理解が不十分で理解が乏しいのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容の説明などご家族様が分かりやすい様に説明を心掛けています。また、ご家族様の意見や不明な点など伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内で行なっているこやまケアアンケートの実施、集計を行い結果についての改善策をご家族様へ配布、施設内に掲示しています。	利用者、家族の意見、要望等、アンケート調査や訪問時や電話連絡等で収集されている。集計を検討し、結果と改善策を施設内に掲示し、家族、外部者にも報告され、日々のケアや運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回事業部の会議やひまわり会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けて話し合いを行っています。	昼のミーティング、事業部の会議、ひまわり会議など、日々の業務の中で職員の意見(入浴、買物等で職員不足)や、提案を聞く機会を設けている。職員全体で検討されサービスに反映させるなど、良好な体制が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度を取り入れることで職員1人1人が目標へ向いやりがいをもちながら取り組めるようになっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外では役職や職種別、継続年数などによって異なった研修を開いており、対象の職員に意見を聞き参加している。また、外部の研修にも進んで参加出来るように自己啓発費用として上限3万円を補助が出ます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各研修や事業部内の勉強会などを通して情報の共有や意見交換を行いサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。また、法人内でGH連絡会を定期的に行っており情報共有する事でサービスの質の向上に努めています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には家族様からお客様の情報をお聞きした事をセンター方式シートを用いて集め、入居後などもアセスメントを行いお客様の心配、不安、要望などお聞きしたり密に接する事で安心して頂けるような対応を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族様が現在困っている事や今後について不安に思っている事などお聞きし少しずつ信頼関係が築けるよう努めています。また、お客様の様子が分かる写真付きのお便りや近況報告を毎月送らせて頂き関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に体調確認などを行い、お客様の状態を知り、ご家族様からも状態や思いを伺っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下準備や片付けなど出来ることは一緒に行なっています。また、畑で野菜を収穫したり、お客様の状態に合わせて支援させて頂いています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などにご家族様をお呼びし、本人様と楽しんでいただけるよう計画を立てて実施しています。また、外出や外泊も安心してできるよう支援しています。	家族が参加しやすいように行事計画を立て、遠方の方には、担当職員が利用者の生活状況と写真を添え、報告と呼びかけを行なっている。家族が施設に介護をゆだねることなく、行事、外出、外泊等、協力体制は整っている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て下さった方とゆっくりお話ができるように、環境など配慮しています。また、隣接施設と協力してお客様の馴染みの方がいらっしゃる所へ面会へ行ったり、彼岸時期のお墓参りなどを支援しています。	地域に暮らす馴染みの人との交流や生活習慣が継続できるよう環境の配慮を行っている。月2～3回外出したり、商店や隣接施設との協力をいただき、馴染みの関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席など、仲の良い方やお話の合う方は近くに座っていただいたり各フロア職員が協力して両フロアでのレクリエーションなど行なっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院されて退居される方には病院への面会になりますが、他の施設に移られても面会など伺わせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用してお客様から直接聞けない時は本人様の発言等、アセスメントを行いモニタリングを行っています。一人一人の今までの暮らしの暮らしの状況、ご家族様からも意見を聞きながら、思いを尊重しています。	本人のライフスタイルを把握するため、センター方式のアセスメントシートを活用し、詳細に記録されている。また、一人ひとりの思いや意向に添った生活が可能となるよう、カンファレンスやモニタリングを通じ、日々、検討が重ねられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴として、前に利用されていた所からの個票や家族様、関係職種の方から話を伺い現在のサービスへ活かす様にしています。	本人の個性や価値観を重視するとともに、これまでの生活歴や生活環境についても家族から伺って情報を共有している。また、地域の関係者への働きかけによって得られた情報も含め、本人らしい生活が継続できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態、好きな事、趣味などを情報収集などしながら、ケアプランに入れたり職員で共有、把握できるようにしている。また、毎日のミーティングでお客様の状態変化や様子について情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を中心にカンファレンスを開催し、モニタリング、サービス担当者会議を行っています。不十分な点もありますが計画作成者と協力して行なっています。また、ご家族様からのご意見は計画作成を中心に、電話や訪問、面会時に伺ってお話を聞いています。	居室担当職員が中心となり、カンファレンス及びモニタリングを実施し、家族の要望や関係職員による気づきを踏まえ、現状に即した介護計画を作成している。また、定期的に計画を見直し、状況の変化に応じた随時の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子については毎日のミーティング時に気付いた事をあげ、記録に残し伝達をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅要求に対しては外への散歩やドライブなど支援しており、自施設ダメで難しい対応も他事業所と協力する事で外出企画など取り組み始めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域貢献として地域のゆり農家様への協力として新聞たたみ作業を行い、出来た物をお客様と一緒に届ける取り組みを行い始めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院での担当医が決められていて、定期的を受診をしています。またご家族様にはお便りや面会時などに、結果や現在の体調について報告させていただいています。	かかりつけ医や希望病院の受診は、継続している。津南町の協力病院をかかりつけ医とし、定期受診はホームで行い、急変時の即時対応にも協力を得ている。その他の病院受診は、家族にお願いしている。受診結果は、面会時や通信等で家族に報告し、共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の变化など気付いた事があれば記録に残し、情報を送っています。また、週1回看護師が来た時に、お客様の状態を伝え相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護連絡票を作成したり、面会時に看護師よりその都度現状について情報を得ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したお客様に関しては担当の医師やご家族様と今後予想されるリスクなど十分に話し合いを行っています。そしてそのお客様に対してどのように支援していくか、職員間で話し合い協力します。	看取りの実例はないが、今後予想される重要課題として受け止め、随時、話し合いを進めている。また、重度化している利用者への今後の取組み方については、本人、家族、医師との連携の下で慎重に検討が重ねられており、体制が整いつつある。	利用者の重度化が進んできている現状を踏まえ、事業所としての支援体制を明確にするとともに、看取りの在り方について、職員の研鑽を重ねることで、より実践的な支援体制の確立を期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で研修等で急変時の対応について勉強する機会があります。急変時のマニュアルもありますが、実践につなげていくには不十分かと思えます。	救急法の講習には、全職員が参加しており、定期的に内部研修にも取り組んでいる。また、詳細なマニュアルも整備されており、AEDの設置や実技訓練も行われている。今後も、継続的な訓練を重ねていくことが、実践への自信に繋がるものと思われる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回事業部全体で避難訓練を行ったり通報訓練を行っています。避難訓練は地域の方にもご協力いただいています。食料や備品も常備し備えています。	地元消防団や地域住民の協力を得て、避難訓練や通報訓練といった実践的な訓練を年2回、定期的実施している。また、食料や飲料水等の備蓄も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、トイレ時など必ずドアを閉めお客様の居室に入る際も声を掛けて入室しています。トイレの声掛けも周りに聞こえないよう配慮しています。声掛けも馴れなれしすぎないように注意しています。	尊厳に対する取組として、「こやまケア実践評価」を年2回実施し、自己評価を行っている。日々の関わりの中では、ケアの行動指針9か条を定め、朝会で復唱することで人権意識の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様が食べたいと希望のあったメニューやお好きなカラオケなど希望をいただいたら取り入れるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の希望で散歩や外出に行ったり、レクリエーションも全員一緒では無く、お客様に選んでいただいたりする事で、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に着る服を選んでいただいています。また、家族様と外出する時や施設内の行事で出かける際も好みの洋服など一緒に選んだり身だしなみに気を付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や食器拭きなど、出来る事を活かしながら手伝っていただいています。また、誕生日や行事などではお客様が喜んでいただけるようなメニューや好きなメニューを考えています。	献立は、行事食も含め、利用者の希望に添いながら決めている。管理栄養士の点検も行われており、栄養面への配慮もなされている。利用者と職員と一緒に調理や片付けを行い、食事も同じテーブルを囲んで、和やかに摂られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病をお持ちの方もいるのでお一人お一人の状態に合わせて食事を提供させて頂いています。食事、水分チェック表を活用し水分確保や食事バランスの支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、お客様の状態に合わせて声掛けを行いながら口腔ケアをしています。また、磨き残しの確認や、入れ歯の洗浄等も行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在オムツを利用している方はいませんが排泄チェック表からお客様の排泄リズムを読み取り、トイレ誘導や声掛けを行う事で、失敗を少なくしています。	排泄チェック表の活用により、個々の習慣や排泄パターンを把握し、トイレ誘導も円滑に行われている。利用者の状態やその場の状況に合わせ、自立に向けた働きかけが行われており、利用者全員にトイレでの排泄が実現されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事を取り入れ、水分を摂っていただけるよう声掛けや隣の棟への歩行運動など便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様に気持ち良く入浴していただけるように、声のかけ方や時間について職員同士で考え、工夫しています。入浴希望があった際もご希望に添えるように努め職員同士協力合っています。	入浴は、朝、夕などの時間帯による制限はなく、利用者の希望や生活習慣に合わせて対応している。仲の良い人同士の入浴や同性介護職員の必要な方には、職員が都合をつけて対応し、安全で安心な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた様子が見られる時はお客様にお聞きしてすぐに休んでいただいたりお客様のお部屋の温度にも注意をしています。また、就寝時にもその方に合った対応で就寝介助を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後お薬に変更があった際は、当日勤務者に伝えたり薬板を変更し情報共有しています。薬板には薬の効能も記入しお客様がどんな薬を飲んでいるか分かりやすく記入しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や散歩がお好きな方には外出支援、料理がお好きな方には一緒に料理を作って頂く、などその方に合わせた支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった際はこちらからご希望を聞き散歩やドライブへ出かけています。買い物のご希望があれば一緒にスーパーなどに出かけています。毎月2回程の夕食、外出企画を立てお客様の行きたい所や食べたい物を食べに出かけています。	外出支援は、住み慣れた周辺の散歩や行き付けのスーパーへの買い物など、本人のライフスタイルに合わせ、利用者本位の支援に努めている。また、月2回の夕食やドライブを企画するなど、楽しみと生きる意欲を育むような配慮もなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時には立て替えとして、買い物時などに購入をさせて頂いています。お客様の状態に合わせてご家族様と相談しお金を持って来られている方に対しては保管等に注意し自由に使って頂けるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様から希望があった際は電話して頂いたり自分では番号が押せない方には代わりに押してからお渡しするなど対応させています。また、手紙については手紙を書かれた際は送らせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物や写真は季節や行事ごとに貼り替えお客様に見て楽しんで頂けるようにしています。共有の空間を含めトイレや浴室なども温度管理を行っています。夜間等は混乱を招かないよう明るさや温度など気を付け配慮しています。	リビングは天井の梁が見える仕様で、高さや広さのある圧迫感のない空間になっている。壁には、利用者の目線で思い出の写真や手作りの作品が飾られている。テレビや炬燵もあって、様々な憩いの場として利用できるような工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士や昔からの知り合いの方などが隣同士で座るなど、それぞれ皆さんが好きな場所で過ごして頂くことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていた馴染みの物や家具や洋服など持って来て頂いています。居心地良く過ごしていただけるよう本人様が作られた作品や出かけてきた時の写真など飾らせて頂いています。	居室の入口には、利用者の個性を活かした置物が飾られ、本人らしさを表現している。室内では、利用者の馴染んだ家具や小物が使われており、思い出の写真やホームで頂いた賞状なども飾られ、本人の生活意欲を育むための配慮もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力維持のため、洗濯物たたみや洗い物、料理や食事準備等その方に出来る事をして頂いています。廊下や玄関にも手すりを付け安全に歩行して頂けるようにしています。		